

2020年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度をみると、北半球の中高緯度帯では波列パターンが卓越し、アラスカ湾、グリーンランド～ヨーロッパ、中央シベリアで正偏差、北米北東部、ロシア西部、日本付近で負偏差となった。200hPa 風速をみると、寒帯前線ジェット気流はユーラシア大陸北部で蛇行し、亜熱帯ジェット気流は南アジア～日本付近で平年の位置と比べて南寄りを流れた。海面気圧をみると、アラスカ湾、アイスランド～ヨーロッパ中部、バイカル湖周辺で正偏差、北米北東部、北極付近～ロシア西部で負偏差となった。850hPa 気温をみると、アラスカの南海上、ヨーロッパ中部、西・中央シベリアで高温偏差、カナダ、ヨーロッパ東部～ロシア西部、東アジア東部で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、東アフリカ北部～南インド洋熱帯域の西部、メラネシア、大西洋赤道域西部で活発、インド洋中部赤道域～インドネシア付近、南太平洋熱帯域の中部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、インドネシア付近～アフリカ～インド洋を東進した。対流圏上層では、インド洋西部で南北半球対の高気圧性循環偏差が見られた。南アジア～日本付近、インドネシア付近～オーストラリア北部で低気圧性循環偏差、メキシコ湾付近で高気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、インド洋中部～東部で南北半球対の高気圧性循環偏差が見られた。オーストラリア北部～南太平洋熱帯域の

中部で高気圧性循環偏差となった。アラビア半島付近では低気圧性循環偏差となった。海面気圧は、インド洋中部～東部の南半球側を除いて、熱帯域の広い範囲で正偏差となった。南方振動指数は+0.2だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.47°C(速報値)で、1891年の統計開始以降、4月として2番目に高い値となった。4月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.79°C/100年(速報値)である。

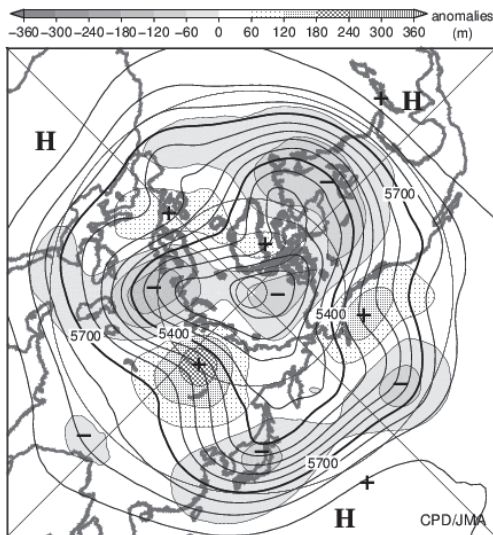
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東シベリア北西部～中央アジア北東部、東南アジア南西部～オーストラリア北西部、ヨーロッパ中部～西部、西アフリカ西部～南部、中米及びその周辺、東南アジア北東部～ミクロネシア南東部、オーストラリア北東部で異常高温となった。
- ヨーロッパ南西部～北アフリカ北西部で異常多雨、中央シベリア南部及びその周辺、ヨーロッパ東部～中部、英国中部～アイルランド、カナダ西部～米国西部、中米南部～南米北部で異常少雨となった。

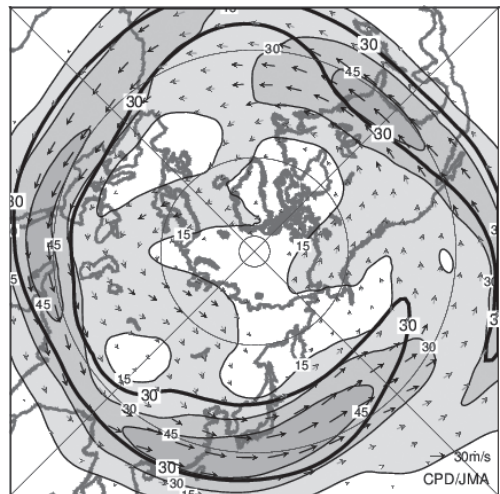
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

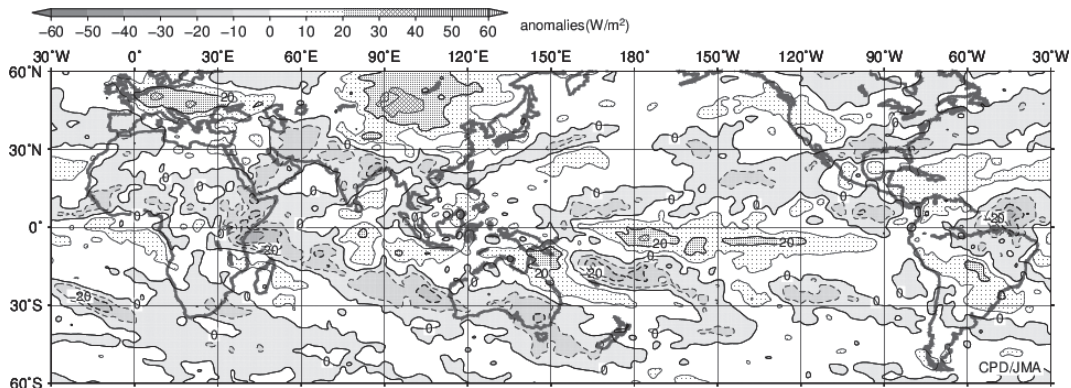
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2020年4月の北半球月平均500hPa 高度及び
 平年偏差
 等値線間隔は60m。陰影は平年偏差。平年値は
 1981～2010年の平均値。

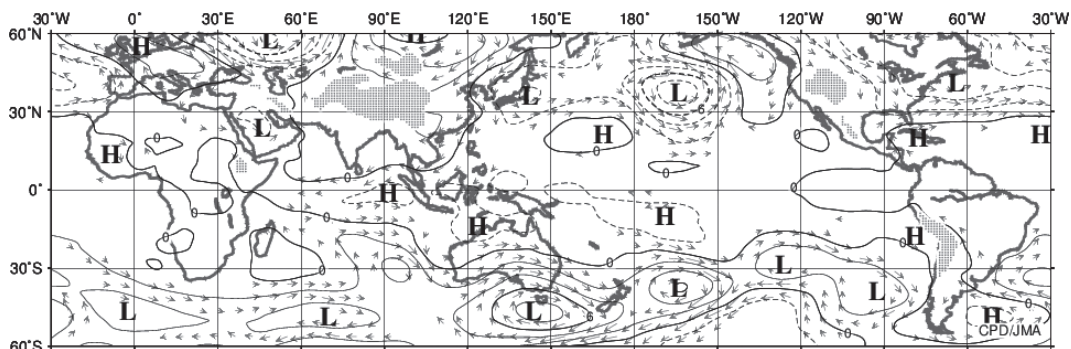


2020年4月の北半球月平均200hPa 風速及び
 風ベクトル
 等値線間隔は15m/s。太実線は平年の風速で等値
 線間隔は30m/s。平年値は1981～2010年の平均値。

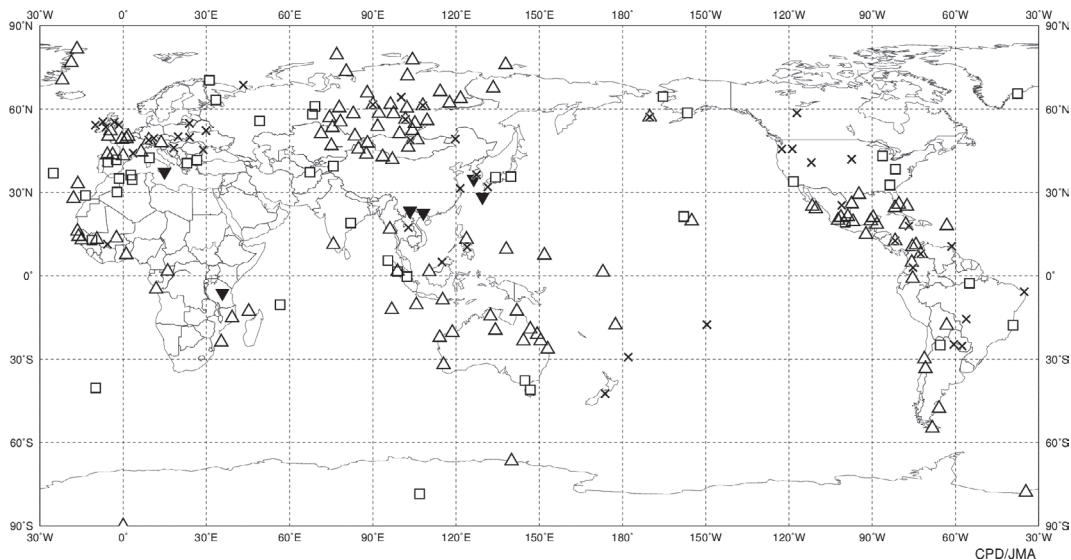


2020年4月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年4月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2020年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。